

「一流の人に学ぶ」

校長 香山 和昭

猛暑の夏から少しずつ過ごしやすい季節となり、気づけば秋の気配や香りがする今日この頃となりました。

さて、9月19日より運動部では、3年生に代わって2、1年生が選手となる新人体育大会の地区予選が行われました。陸上競技部では4種目で優勝し、県大会への出場が決定し、男子バレー部は埼葛北部地区予選を優勝して県大会への出場権を得ました。県大会での活躍を期待しています。また、女子バレー部は予選リーグを勝ち上がり、準決勝に進出しました。県大会出場は逃しましたが第3位と健闘しました。男子ソフトテニス部は団体戦でベスト8、個人戦で県大会代表決定戦で惜しくも敗れました。今回の新人体育大会での経験から課題を発見して対策を立て、練習を工夫し、必ずや学校総合大会等で高められた力を発揮してくれると信じています。

さて、今回の学校便りは、スティーブ・シーボルト著「一流の人に学ぶ自分の磨き方」という本より一部を紹介します。なかなか一流になるのは難しいかもしれませんが、自分自身を向上させるために実行に移してもいいのではないかと思います。目標を定め、良い習慣をつくり、規律を重んじながらしっかりと準備を行い、自分自身で決めたことをやり抜くことで、自分自身に勝てるのではないのでしょうか。人間に悩みや課題はつきものです。悩みや課題のない人はまずいないと思います。今の自分にできることを習慣化し、毎日コツコツと準備をして実践することが自分自身を向上させることになると思います。本校の合言葉 **Much Better** (さらによりよく) にもつながります。

★一流の人は限界に挑戦する

一流の人は大胆である。自分に大きな自信を持っているから絶えず限界に挑戦する。

二流の人は他人の評価を気にするあまり、なかなか思い切ったことができない。

一流の人が限界に挑戦するのは、もう少し努力すれば勝利を収めることができると確信しているからだ。二流の人からすると押しが強すぎるように見えるが、一流の人はそれを成功のための代償の一部とみなしている。この小さな違いが大変大きな違いを生む。

★一流の人は自分に勝つことを考える

二流の人にとって勝利とは他人に勝つことを意味する。

一流の人にとって勝利とは、昨日の自分を超越することを意味する。彼らは他人より優れていたいという欲求を超越し、自分をもっと磨くことに意識を向けている。

一流の人は「昨日よりも今日、今日よりも明日」という哲学で生きている。彼らにとって勝利とは、さらに人間として絶えず成長し進化を遂げることだ。

一流の人は勝利を内面の課題とみなす。だから他人に勝つことではなく、自分の中

の最もいい部分を引き出すことに意識を向ける。
つまり勝利とは今の自分を超越ることなのだ。

保護者の皆様、19日（土）合唱祭を開催いたします。今年度は合唱祭のみとなります。この行事を成功させるために、生徒たちは一所懸命練習に取り組んでいます。校長室にも毎日歌声が響いてきています。どうか多くの保護者、地域の皆様の御来場をお待ちしています。今後とも保護者・地域の皆様の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。